

研究分野	資源増殖、種苗生産	部名	調査普及部
研究課題名	日本一旨い！さくらます資源造成実証事業		
予算区分	水産振興費		
試験研究実施年度・研究期間	H20～H21		
担当	角 勇 悦		
協力・分担関係	追良瀬内水面漁協・大畑町漁協・奥入瀬川鮭鱒増殖漁協		

〈目的〉

サクラマス資源の更なる増大を図るため、サクラマス稚魚の早期放流効果を検証するとともに、サケ飼育池の未使用期間にサクラマス稚魚を育成し、既存施設を有効利用する。

〈試験研究方法〉

1. 幼魚生産実証事業

県内3ふ化場(追良瀬、大畑、奥入瀬)のサケ飼育施設にサクラマス幼魚生産技術を導入して、春の稚魚期から秋の幼魚期まで飼育し、その飼育結果及び経費を基に事業化のための飼育管理マニュアルを作成する。

2. 放流効果実証事業

サケ飼育施設で飼育したサクラマス幼魚を追良瀬川、大畑川、奥入瀬川の3河川に各5万尾計15万尾を放流して、河川における生息状況及び河川内の移動状況等を調査する。

なお、各河川5万尾のうち3万尾にはリボンタグを付け、更にうち500尾については尾叉長及び体重を測定し、個体識別用の番号をリボンタグに記した。

〈結果の概要〉

1. 幼魚生産実証事業

追良瀬、大畑、奥入瀬の3ふ化場において、河川放流用として各5万尾計15万尾の幼魚を生産した。飼育期間中は、飼育池にデータロガーを設置して1時間置きに水温を計測し、毎月の魚体測定を行った。放流用幼魚全個体の脂鱗を切除し、更に放流河川毎に異なるリボンタグを付けた。

魚体測定の結果(図1)、追良瀬ふ化場では5月に平均体重3.1g、7月5.6g、8月10.3g、9月10.9g、10月14.7gと順調に成長した。

大畑ふ化場では6月時点で平均体重1.1gと成長が遅れていたが、その後飼育水温、給餌量等を調整した結果、7月2.3g、8月4.2g、9月10.8g、10月13.9gとなり、最終的には適サイズまで成長した。

奥入瀬ふ化場では6月に平均体重3.1g、7月4.6g、8月7.5g、9月12.2g、10月13.1gとなり、順調に成長した。

## 2. 放流効果実証事業

追良瀬川、大畑川、奥入瀬川の各河川に10月～11月にかけて5万尾ずつ計15万尾を放流した。放流後の11月から1ヶ月置きに電気ショッカー、投網などを使って採捕調査を行っており、現在も調査中である。

### 〈主要成果の具体的なデータ〉

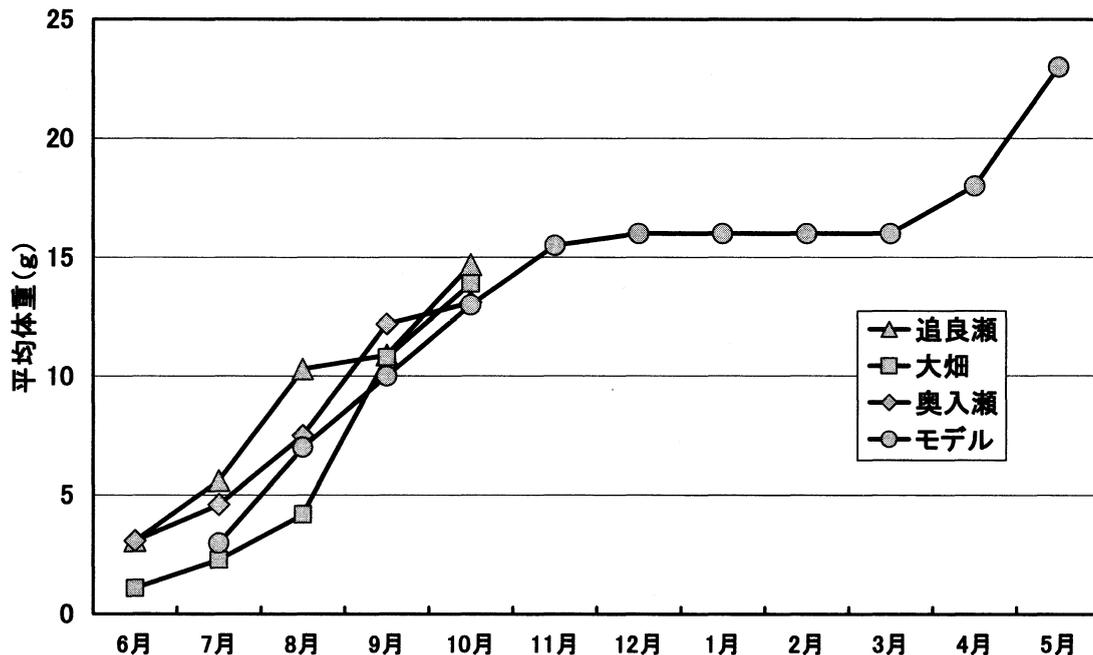


図 ふ化場における体重測定結果

### 〈今後の問題点〉

追跡調査の結果を基に、今年放流した河川がサクラマス成長、越冬、降海などに適しているどうか検討し、次年度の放流河川選定の判断材料とする。

### 〈次年度の具体的計画〉

飼育管理マニュアルを作成する。

### 〈結果の発表・活用状況等〉

特になし